

第四回蒸気噴出対策連絡会議（8月8日開催）について

事業者から噴出抑制に向けた進捗状況と今後の見通しが資料に沿って説明され、主に以下の点についての質疑応答と要望がなされると共に、出席者間での情報交換がなされた。次回連絡会議は8月22日を予定。

1. 質疑応答

- (ア) 偏向装置の稼働状況、やぐらの状態、蒸気の量や高さや処理水の量、作業員の体調についての質問に対し、偏向装置・蒸気防護壁の機能と噴出水の状況は概ね想定通りであり、作業員に体調不良者も出ていない旨を説明
- (イ) 硫化水素モニタリングにおける風向測定の有無についての質問に対し、モニタリング地点は地形の高低を考慮して南側を重点としており風向は測定していない旨を説明
- (ウ) 土壌調査の現状についての質問に対し、環境コンサルタントによる初期調査を開始しているが、その後の調査内容は今後検討していく旨を説明
- (エ) 噴出抑制作業に関する事前の住民の方々への説明についての質問に対して、適切に説明させて頂いた上で、退避推奨に関しては住民の方々の判断を尊重している旨を説明

2. 出席者間での情報交換

- (ア) 風評被害に関し、東京や名古屋の量販店や取引先に出向き丁寧に現状の説明を行っており、安全性を理解して頂いて、説明に来てもらって良かったと評価をうけている。今のところは大きな影響は認められないが、20日以降も関西方面で引き続き消費地で情報提供をおこなう。(JA ようてい)

3. 事業者への要望

(ア) 土壌調査においては、安全を確認すべきところを、社会的・地域的な観点で関係者と相談し、調査のポイントを選定することの重要性

(イ) 安全を確認した上での交通規制解除の検討

以上